

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づく事業所目標を事業所内の目に留まる場所に掲示している。月一回事業所会議の場で、理念や目標の意識付けをし、同じ目標に向かってご利用者の支援を行っている。職員面談時や日常のケアの相談時にも、理念や目標に立ち返っている。プロジェクトチームが中心となり、理念を実現できるよう努めている。	法人の理念に基づく事業所理念を作り上げ職員の目に留まる場所にも掲示しており、毎月行う会議の場でも振り返りの機会をもちながら職員全体に対して意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近所のスーパーへ買い物に出かけ、近隣の方と関わっている。近隣住民の方へ、畑で作った野菜を届けたり、頂きものをしている。職員全体で地域とつながる意識を強く持っている。	日常的に職員と共に近所のスーパーへ買い物に出かけ、近隣の方々と直接に関わるよう支援に努めている。また近隣住民の方に、事業所の畑で作った野菜を直接に届けたり、反対に野菜等をいただいたりや交流を深めあっている。事業所職員全体で地域と繋がる大切な意識を強く持って日々の交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と職員が地域貢献するため、毎月0のつく日に「ごみゼロ運動」を行い、近隣公園のゴミ拾いを行っている。AEDや車いす、専門書の貸し出しや、移動スーパーのご案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催(4月～8月まで書面開催)した。ホームの運営状況や活動報告を行い、頂いたご意見を職員間で共有し、日々の業務の励みとしている。	コロナ過でもあり書面決議もあるが、運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、事業所の運営状況や活動状況について報告し、メンバーからはそれに対しての意見や助言をいただいております。加えてその意見等を職員間で共有し、事業所での日々の業務に反映されるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者がホーム内だけでなく地域でご自分らしく暮らすための協力の依頼や相談をさせていただいている。市の担当者からも、認知症ケアのご相談を承っている。認知症介護指導者が在籍しているため、連携を強化していきたい。	新潟市との連携でも、コロナ禍での利用者が地域と関わりながら穏やかに暮らせるように市の担当者から直接に助言をいただいたり、相談を受けたりサービスの取り組みについても双方向的に話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、それを基に事業所内研修を行っている。サービス内容のご理解をご家族に頂き、事業所職員全体で取り組んでいる。	事業所では法人母体が大きいため、身体拘束防止等の外部研修に参加した職員の資料を基に内部研修を実施されており情報の共有化に積極的である。内部研修の情報にも職員全体が理解を深め、日々のサービス提供に活かしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加しそれを基に事業所内研修を行っている。サービス内容をご本人やご家族にご理解頂き、事業所職員全体で不適切なケアを見逃さない風土づくりに努めている。	虐待防止等の外部研修で学んできた資料を基に事業所内研修を行い職員の理解を深め日々のサービス提供に活かしている。また、サービス内容についてを本人や家族にも理解してもらうよう努めており、事業所の職員全体で不適切なケアを行わないケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用したご利用者もいるが、職員全員が制度について十分な理解ができているとはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご不安や疑問点が無いよう、補足説明などで対応し、いつでもご相談いただける声掛けや雰囲気を作るようにしている。ご本人へはわかりやすい説明となるよう補足説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的なやり取りの中で、ご利用者やご家族が意見や要望が言いやすい環境となるよう努めている。年に一度、個別面談会を開催し、ご家族のご意見をいただいたり、玄関先にご意見箱を設置している。	事業所では、利用者から意見等を日々の暮らしの中で気軽に何でも話しやすい雰囲気づくりを心がけており、職員全体で意識付けを図っている。また、年に一度の個別面談会の折にも家族から忌憚のない意見をもらえるよう丁寧な対応を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の声に耳を傾け、職員の意欲向上につながるよう努めている。会議や個人面談を行い、職員の意見が現場へ反映されるような環境作りに努めている。	管理者は会議の場や個人面談時のみならず日頃から職員からの意見に耳を傾けることに努力している。また、職員からの意見や提案を聞くだけでなく、実際の業務にも反映される環境づくりにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の目標設定で、個人の目標を立て、実行し、評価フィードバック面談を行っている。目標以外にも、職員の勤務態度や実績に目を向け、働き甲斐のあり働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社員のスキルアップを目指し、事業所内外の研修に参加している。新人職員にはOJT担当者をつけ、業務の中で育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などを通じて同業者との意見交換や交流する機会がある。また、地域活動のなかで他事業所職員と交流し、一緒に畑作りや勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の言動から、ご本人視点で不安を極力少なくするための環境づくりを意識し、信頼関係の構築に努め関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場を思い、寄り添い、不安や要望に対し誠意をもって対応している。ご家族にとって負担にならない連絡方法を確認したうえで、連絡を取っている。ご家族が話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを限定せず、ご本人やご家族にとって良いと思われる支援を考え、状態に応じた提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を一人の人として、尊ぶ意識を持っている。その方の人生観や価値観、その方そのものを尊重し、時に互助の関係となり関わっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	無理のない範囲でご家族の協力をいただいている。ご家族と喜びや悲しみを共有し、ともにご本人を支えていく関係づくりに努めている。ご利用終了後も関係が継続するご家族もいる。	事業所職員は普段から家族の協力を得られるよう努めており、日々の中できれいに本人を支えていく関係づくりに力を入れている。中には事業所を利用終了後もその関係が継続する利用者家族もおられるとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みのお店に行ったり、自宅で過ごす時間を作ったり、ご利用者にとっての思い出や大切な人、モノが、ホームでの暮らしや病気によって途切れないよう努めている。	利用者が在宅時に利用していた商店に行ったり、自宅で過ごす時間を持ったりと利用者との関係を大切にすることで、馴染みの人や場との関係が継続されるよう丁寧に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が他者のことを気遣う言動が見られる。ご利用者同士の関係性を把握し、環境調整している。場面に応じて関係性がストレスにならないような配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人のご利用先やご家族に手紙を出すなど、関係が途切れないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族とのかかわりを中心に、職員間で情報共有を行い、ご本人の思いに可能な限り沿う支援ができるよう計画作成担当者を中心に把握に努めている。	利用者とは日常の関わりの中で、その人の思いや希望の把握に努めようとしている。また意思疎通が困難な利用者の場合は、家族や関係者から情報を得て、その人の暮らしに結びつけられるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集はもちろん、入居後のご本人との会話やかかわりを通じて、生活歴や馴染みの暮らしの把握と実現に努めている。	利用者の入居前の担当職員や家族から、これまでの生活環境を基に情報収集している。入居後も本人との関わりの中かで、趣味、得意なものの把握に努め、利用者をより深く理解し、これまでの生活が継続できるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の発するサインや言動から、現状の把握に努め、職員間で共有し対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、ご本人やご家族のご意向を伺いながら、チームで課題を見出しケア内容について計画書を作成している。	担当職員と計画作成担当者が中心となり、本人や家族には日頃の関わりの中で、その思いや意向を伺い、職員全員でアセスメント、モニタリングを繰り返しながら、気づき、意見、要望の反映した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中での気づきを見落とさないよう個別記録に残し担当職員中心に職員間で共有して、変化に応じてケアの見直しをするよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いに沿って今までのつながりや新たなつながりの支えのもと、臨機応変に対応している。楽しみの支援ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力体制が得られてきてはいるが、ご利用者一人一人の地域資源の把握や活用は、十分とは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を利用する場合はご家族の協力のもと受診支援をしている。定期受診や緊急時の対応など適切に支援できるように、情報を伝え支援の検討をしている。往診医の対応もある。	利用者の入居前のかかりつけ医への受診は基本的には家族同行の通院となっている。医師への情報提供は日々の記録にて行われ、受診結果については家族にも速やかに報告され、その情報を共有している。協力医師の往診対応も実施されるなど恵まれた環境で支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の看護師訪問による様子観察と相談助言を得ている。緊急時も看護師へ報告し、適切な対応ができるよう指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換に努め、早期に退院できるよう計画作成担当者が中心となり連携をはかっているが、相談できる関係性が十分あるとは言えない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と、年に一度の面談時にはご本人やご家族のご意向を確認し、事業所としてできることを明確にしたうえで出来る限りご意向に沿えるよう体制を整えている段階。	入居時に「重度化した場合や終末期ケア」についての説明がなされ、可能な限り意向に沿えるよう体制整備を進めている現状である。今後も重度化や病状変化があった場合は、主治医、家族と情報の共有に努めていくながら、事業所で出来る限りの対応に努め、本人、家族の要望に沿った支援の取り組みを考えている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、実践力を高めるためのシュミレーションを行い、消防署のAED講習などに定期的に参加しているが、全職員が安定した力があるかという点と不十分。	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しており、実践力を高めるために消防署のAED講習などにも定期的に参加している。今後も全職員が安定した力を発揮できるよう研鑽を積んでいきたいと意欲的である。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の昼夜想定避難訓練のほか、災害備蓄品を揃えているが、地域との協力体制については確認が不十分。	年2回の昼夜想定避難訓練を実施しており消防署の訓練災害備蓄品をも揃えている。地域との協力体制についてはコロナ禍の問題もあり現状実施できない状況である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の立場に立ち言葉かけや対応をしている。配慮が不十分だと感じた場面は、職員同士注意があったり、会議で議題に挙げて検討している。	職員は日々の暮らしの中で個々の生活歴も違うため、利用者を敬う気持ちで心身の状況や状態に合わせた言葉かけや対応が出来るように心がけている。馴れ合いにならないよう、本人の人格を尊重したケアを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを話しやすい環境づくりや、関係性構築に努めている。発言だけでなく、言動から思いを読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の支援になっていないかを常に意識し、ご利用者本位の支援ができるよう日々模索しながら業務改善している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	記念日や外出時には化粧やマニキュアなどのおしゃれをしたり、日頃から身だしなみを整えて頂いているが、個別性は低い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食を通じて季節を感じ、懐かしさを感じ、今を知り、誰かとつながることができるよう、楽しんでいただいている。買い物、調理、味見、片づけなど、できることを楽しみながらしていただく工夫を行っている。。	食事は職員と共に地域のスーパーへ食材の買い出しに出かけて旬の物を選んだり、また食べたい物があればメニューの変更も可能となっている。食堂リビング内も広く、食事に関する一連の作業を利用者個々の力を活かしながら、職員と共に行い、楽しい食事となるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせた量や栄養に配慮し、水分摂取をしていただくための味や入れ物、環境の工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操のほか、訪問歯科医の口腔チェックや勉強会のほか、日々その方の状態に応じて、歯ブラシやフロス、口腔用ティッシュなどを使用しケアをしている。義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者ごとに排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながらさり気なく誘導したり、必要な介助をしている。残存機能を活かし、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	利用者の個々の排泄パターンを把握し、その状況に合わせた介助方法での誘導等を心がけ、トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。また利用者個々の身体状況に応じて排泄用品も使い分けられている。自尊心を大切にしながら個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を意識し、毎日の乳製品や食物繊維の摂取、適度な運動をしていただくなど工夫している。その方に合った排泄パターンの把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人のタイミングで入浴していただけるように業務改善や環境の調整などで対応している。コロナ禍で温浴施設へ行けなくなり、イベント湯を実施するなど楽しめる工夫をしている。	入浴は利用者の気分やタイミングに合わせ、希望に基づいた入浴支援が行われている。在宅生活の延長を活かした好みの物品で、気持ちよく入浴できる配慮がなされている。また、浴室内の事故防止に向けた見守りを徹底しており、安全で快適な支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて身体的負担に配慮して日中の休息をしていただいたり、安眠できるような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局と情報共有を図りながら、薬情をファイリングし、職員が情報を理解し共有できるようにしている。状態に合わせた服薬方法の検討や、薬の作用に効果的な服薬方法の相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割として活躍できる環境づくりを行い、楽しみにつながる活動を一緒に考え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で一人一人の希望に沿っては不十分であった。安心して外出できる環境下を考え、ドライブや庭、近所の外出を主に支援した。外出したい気分を尊重し、可能な限り支援した。	外出支援は日々の生活支援の一環として外出を楽しむ機会を設けているが、また、気分転換を図ることに努め生活の活性化に繋げていたが、いかんせん現在のコロナ禍では対応は難しい状況である。可能な限りで支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームの金庫で保管をしているが、ご家族と相談しながら可能な限りご自身の希望でお金を持ち、支払いなどを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモート面会や電話でのやり取りができるよう、ご本人やご家族へ声をかけ、つながりを大事にした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の方やご家族から頂いたものを飾ったり、季節を感じる飾り付け、ソファなどの配置も思い思いの落ち着いた空間となるよう工夫配置している。	事業所内リビングの共有スペースは広く、利用者の作品や行事の写真等が掲示されており、また、四季を感じさせる装飾が施され、和やかな生活感が窺える光景が観られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外にも落ち着いて過ごせる空間が持てるよう、図書コーナーや外を眺めるコーナーなど、それぞれの過ごし方ができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れ親しんだものや、仏壇など自由に持ち込んでいただき、安心して過ごせるよう対応している。	居室内では本人家族と相談し、普段から使い慣れている馴染みの家具、日用品、家族写真なども飾られ、利用者が在宅生活での延長線上にあるように安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の生活の癖や、活動しやすい環境づくりはもちろん、安心・安全に生活が送れるよう環境を整えている。		